

# 磐城大衆新聞

毎月二回 一日、十五日  
 定額 一月 五十五錢  
 廣告料 (場所指定十錢増)  
 印刷人 長谷川兵衛  
 發行所 磐城大衆新聞社

和洋銅鐵金物問屋  
**釜屋商店**  
 電話 9・99番

## 常磐炭礦界に輝く明星

**高階一郎氏**  
 事業家氣質に二つある。一は豪放にして所謂親分肌の強意鐵腸の力の人。一は思慮周到なる事務家型の徳の人。

前者は力を以つて人を征服せんとし、自家一人の意志を以つて大衆を統導する舊式英雄型の人物である。しかるに後者は自己の意志感情を滅却して大衆の心を吸み取り「人格の光り」徳を以つて衆を卒する文化的指導者型の人物である。

不動澤五十嵐炭礦所長、高階一郎氏は後者に屬する即ち徳を以つて衆を指導する事業家タイプである。

高階氏は炭礦事業家として豊富な経験と卓抜なる技術の所有者である。既に青壯年時代滿洲大陸の一角に技術者として優秀なる手腕を發揮し令名噴々たるものがあつた。

**杉山今朝吉氏**  
 志あれば必ず成るとは至しかるに後者は自己の意志感情を滅却して大衆の心を吸み取り「人格の光り」徳を以つて衆を卒する文化的指導者型の人物である。

今や完成した人格と老練なる技術を以つて不動澤五十嵐炭礦經營の衝に當る。營を張つて經營に精進しつ

不動澤の一角、模範的の十嵐炭礦經營の衝に當る。營を張つて經營に精進しつ

**佐藤留藏氏**  
 浪花炭礦主、佐藤留藏氏は不言實行の事業家である。

世の多くの炭礦業者は外観極めて華やかなれど内容空虚なる經營振りをする者があつた。佐藤留藏氏は絕對に然らず、石橋を叩いて渡る極めて穩健着實なる事業經營方針の下に歩

湯の岳を仰いで自ら作業勞働服を纏ふて坑内探炭の第一線に立つて部下を指導しつゝある。

**濱崎善三郎氏**  
 氏は磐城炭礦事務局長の要職にある。永らく勞務課長として親しく勞働者に接して勞働者生活改善向上のため献身された。

大正六年帝國大學法科を卒業爾來磐城に入社し豊富な經驗を蓄積して今日に至つた。

新進氣鋭の事業家として令名噴々。氏は團圓の名手として趣味極めて豊かな人である。

**比佐源造氏**  
 氏は入山探炭庶務係長として又湯本町會議員として我孫子氏は古河礦業好問令名ある。

圓満なる常識家として八面玲瓏極、めて物柔かな人である。磐城第六回の出身にして爾來廿年余職務に精進して今日に至つた。

秋原氏は常磐炭礦界の麒麟兒として、明快透徹せる頭腦を果敢決行の鐵志の持主である。

**小田吉次氏**  
 少年時代より、つゞぎに人世の悲風慘雨に遭遇してその心膽を鍛え、そのむかひ、一個の勤勞者より身を帯びたるを見ず常に温順起して今日に立身成功したる立志傳中の人物たる小田氏である。

大地球のドブ腹に坑穴をあけて、所謂黒ダイヤを採掘して全石城人の經濟生活を潤ふす炭礦王として全郷土人ば氏を仰視する。

氏の頭髪の純白なるは氏の過去の苦勞を表現するも陣の輕風に揺るぐ「考ふる」だ。

**吉田宗雄氏**  
 吉田氏は九州天草の産れにして、大正七年東京帝大獨法科を卒業、直ちに入山探炭に入社し、今日は事務長に當る。

理智に輝く眼光、學究人特有の蒼白く澄んだ顔色、物靜かな態度等々、委く文化時代の紳士の典型的人物である。

先年大ロシアの一角を視察研究してその識見を廣め、今や内外の信望を負ふて、明日の大成を待望せられつゝある。

**比佐賢司氏**  
 氏は熱心なる日蓮主義者である。確乎不拔の宗教的信仰を抱いて經濟活動を營みつゝ日蓮ソボン主義者である。

氏は湯本信用無盡株式會社の常務取締役の要職にあり又湯本町會議員として、町政發展のために献身してゐる。

極め聰明俊敏なる流動的頭腦の持主であつて、又文筆に長て會社の各種文案等少壯有爲の人材として明日の大成を待望されつゝある。

**松本徳一氏**  
 氏は物靜かな哲人である。陣の輕風に揺るぐ「考ふる」だ。

平窪の一角に高踏的脱俗筆に記者洗足の名文を捧す

平窪の一角に高踏的脱俗筆に記者洗足の名文を捧す

**我孫子虎夫氏**  
 氏は入山探炭庶務係長として又湯本町會議員として我孫子氏は古河礦業好問令名ある。

圓満なる常識家として八面玲瓏極、めて物柔かな人である。磐城第六回の出身にして爾來廿年余職務に精進して今日に至つた。

秋原氏は常磐炭礦界の麒麟兒として、明快透徹せる頭腦を果敢決行の鐵志の持主である。

**比佐源造氏**  
 氏は入山探炭庶務係長として又湯本町會議員として我孫子氏は古河礦業好問令名ある。

圓満なる常識家として八面玲瓏極、めて物柔かな人である。磐城第六回の出身にして爾來廿年余職務に精進して今日に至つた。

秋原氏は常磐炭礦界の麒麟兒として、明快透徹せる頭腦を果敢決行の鐵志の持主である。

# 平新町長 青沼鋒太郎氏の略歴

慶應三年十月平町揚土に青縣和賀郡長に按騰され四十沼博學氏の長男として生れ一年八月本縣に入り東白川明治十五年十六歳で代用教郡長に任せられ四十三年十員となり、同二十一年十月月から耶麻郡に、大正二年當時の福島始審裁判所の書八月には石城郡に至り四ヶ記に任せられ、二十七年十年を勤め大正七年五月伊達月福島監獄の看視長となり、郡に轉じ同十月官職を辭し三十年十月に長野縣警部にて磐城炭礦に入り事務部長登用されまた三十四年三月として敏腕を揮ひ滿九年の岩手縣に出向を命ぜられ警炭礦生活を経て昭和二年十月警視に昇進盛岡署長となり、昭和四年三月平信務課長となり、三十六年一月退社、昭和四年三月平信務課長となり、三十八年七月同つた。

## 新陣容成つた

湯本町 吉田恭平商店 電話五二番

店主吉田恭平氏は明朗な性格の持主にして、現代の實業家としての申分なき手腕と力量を有して居る。荒物、雜貨、乾物問屋として湯本町第一流の商店である。炭礦及各方面に得意を有し活潑に業務に精進して居る。

## 自動車業界の雄者

薄葉自動車部

綴驛前に堂々たる陣學を構えて薄葉自動車部は花々しく活躍しつつある。主任、薄葉安久氏は沈着冷静なる事業家にして、事業經營學上の天才の腕力量を有して居る。かつて湯本平間軌道會社の支配人として輝やける快腕を揮つた。

## 文化の先驅者

マルトモ 柴田書店

四丁目角に天を靡する高のなした。層ビルディング！是れ石郡に於ける最新文化輸入先驅者で、歐米流儀に住宅と店舗を別々にして最新の生活様式を取る。

柴田氏は孝道の体現者にして月刊諸雜誌を豊富に取揃して一人の母親に奉仕してゐる。孝道の手本を体現した。氏は經濟と理智の人、常識豊富にして一角の識見を有する。

寸刻の怠慢なく、業務に精進勉勵せらるゝは實業家の典型的人物として崇敬せらる。店主、柴田徳二氏は磐城出身の俊才にして時代思潮を理解する明敏なる頭腦として第一線に活躍する最新科學的新學はは逆に今、新人である。

松ヶ岡公園裏、景勝の地位を占め、湯の岳を前望し、尼子亭は巨然としてある。創業廿數年、旅館をも兼ねる所、片濱方面に堅實なる

# 平町旅館料理店評判記

業して營業日々盛大である。縣大官の定宿として定評がある。

## 回とさわ

松ヶ岡公園池畔、第二公園を請負ふて業務に勵む。女將お蝶さんは貞節の女を第一として營業をなす。諸商人定宿として料加あり。感すべきである。何をいつも樓花爛熳が書き入れ時である。

## 回鶴屋旅館

本通二丁目地の利を占めた所に簡易、可憐、親切な諸商人定宿として料加あり。感すべきである。何をいつも樓花爛熳が書き入れ時である。

## 回大村屋旅館

常磐銀行支店と直面して古より營業をなす。政友會方面の人々の會合して種々密議を凝らす參謀本部の觀がある。

## 回石川亭

過般の火災に下幸遭過して此度新陣容を整えて花々しく復活した。先代石川慶太郎氏が生命を賭して基礎づけた平町第一の牛肉店である。業務日に隆昌し、簡便なる食堂もある。

## 回三益

新田町に於ける第一流の西洋料理店である。氣の利きたる座敷あり、高級ラジオあり頗る評判が高い。

## 回初音

鳥料理を以つて賣り出し、江戸つ子式の醉人が足を向ける所である。新舞子には支店があり、貸ボートをもなす。

## 回大貞

醉人、食道樂間に高評あり。主人は弓術に趣味を有し座敷の設備等も完備して遊び心地よき店である。

極めて真面目な營業振りをなし、亭主は料理屋幹事の要聲にあり、業界の信用大である。

## 回未廣亭

食通間に高洋ある料理店である。大廣間は大小宴會場に利用せられ、室内の裝飾にも凝つた品物を整備しておく。

## 回呑氣亭

極めて親切なる料理店である。亭主は料理屋組合長の要職にあつて業界に重きをなして居る。

## 回壽々喜亭

江戸つ子式の料理を以つて定評がある。亭主の義太夫趣味は堂に入り、十八番酒屋の段に至つては職者をして感興の極に達せしめる。傍世界館主として快腕を揮びつゝある。

## 回越の家

天ぶら、其他の料理を以つて有名である。廊下の隅に至るまで清潔な氣分がする。客扱ひは至れり盡せり。例ひ天井一つの客に對しても親切第一心扱ふ。女將は業界に有名な女丈夫である。

## 回松本樓

蒲燒て有名である。感じの極めてよい料理店である。大小宴會場としても好適なる座敷がある。

## 回住吉屋本店

平町第一流の旅館である。大官、政治家、實業家等の定宿として高評噴々である。此度數萬金を投じて新築なつて大宴會場は數百人の客を容るゝに足る。將また模範的宴會場である。

## 院醫波難

町大町平 番五五話電